

エステBプラン

経営と美容に特化したエステティックの専門誌 [エステ ビープラン]

特集

人気コースの作り方、 取り入れ方

人気コースを取り入れることによって、
他店との差別化やスタッフの自信づけにもなり
売上も違ってきます。

特集では人気コースの作り方のヒントやコース、
取り入れたサロンを紹介。

2014 vol. 6
定価 1,028円
(本体価格952円)

2014年(平成26年)10月30日発行
年4回1・4・7・10月各30日発行
第2巻第4号 通巻6号



エステティック産業の新提案

山口祐司プロフィール

大学在学中にスペインに留学し、その後30年スペインに在住。現地入社したJALマドリッド営業所でトップセールスマンとして活躍し、1988年に「インディバ®」と出会いそのポテンシャルの高さから日本でのビジネス展開を思い立ち1994年、日本にインディバ・ジャパンを設立。今年創業から20年を数えるが、「インディバ®」一製品のみで市場展開し、現在では「インディバ®」はエステティックのみならず医療美容、スポーツ・鍼灸など幅広い分野で使用されるに至っている。

深刻な社会問題に貢献できるエステ 「一石三鳥戦略」

日本の「少子高齢化」は確実に進展しています。一方、長寿化も順調に延伸し、2013年統計の平均寿命は、男女ともに世界のトップになりました。

しかし、高齢者層が増大し、健康寿命（日常生活を送ることが出来なくなるまでの平均年齢）と平均寿命の差は、男性で10年、女性で11年という長期にわたり、「要介護」という深刻な問題が続く事になると、言うまでもなく、国の様々な社会保障負担の増大だけでなく、家庭内トラブルが生じ、「少子高齢化」という深刻な社会問題はより厳しく複雑になります。

「健康寿命」の第一は、「ロコモ症候群」（ロコモティブ・シンドローム）次第であると言われ、今や、最も重要視されています。この「ロコモ症候群」とは運動器症候群という意味で、「運動器の障害」に至り「要介護」となる症候群の事です。「人間は運動器に支えられて生きている」と言われ、メタボリック・シンドロームを超える深刻な社会的問題となってきたのです。

2014年厚労省白書でも「いかに健康な期間を長く保つか」（QOLの基本的理念）をメイン課題としています。その取

り組みについては、「メタボ対策」公表当初と同様、「根拠が示されていない主観的な目標、願望にすぎない」という専門家筋からの評価もあるようですが、5兆円の社会保険抑制を目指しているのです。

加齢による身体機能の衰えと共に、「閉じこもり」などで運動不足になると「筋力」や「バランス能力低下」などと、「運動機能低下」が起こり、容易に転倒しやすく、「炎症」「障害」→要介護につながる。

結果 → 「QOL」は低下し、不健康長寿に突入

ロコモ症候群を放置すると様々な深刻な疾患につながり、そのうち変形性関節症や骨粗鬆症だけでも、推計で
男性 21,000,000人
女性 26,000,000人
合計 47,000,000人
したがって、これは国民病と言えます。

どちらにしろ、「健康寿命の短縮」は、寝たきりや、要介護が増加することにつながり、早急且つ継続可能な効果的対応策が求められるのです。

「健康寿命の延伸」は日常の「生活の質」に直結するものです。

ADL (Activities of daily life = 日常生活動作) という言葉がありますが、日常生活を送るに「最低限必要な、日常的な動作」のことで、例えば、寝起きや移動、トイレや入浴、食事、着替えなど……。

日常生活動作は自立しているのに、「通常の日常生活」ではなく、あくまで「日常生活を送るための最低限の動作」を指しています。

自立度の低下や寝たきり、つまり要支援・要介護状態は健康寿命の最大の敵。そしてその要因の第1位は「運動器の障害」なのです。

一方、[Quality of Life] (生活の質) の向上という言葉は、すでに10年以上前から注目されてきましたが、ご承知の通り、いまだ目立った動きはありません。「生活の質」を考えている日本人は多いと思いますが、危機感が浅い為に施策としては実施されていないのが現状なのです。

我々は、この10年以上、「生活の質」(QOL)の向上にチャレンジしてきました。そして、真の「生活の質」(QOL)の向上とは、「健康」だけでは意味がないという事に気付きました。

美容ケアの対象には、「痩身」、「ボディバランス」、「ボディタイトニング」、「セルライト」、「タルミ」、「二重顎」、「肌荒れ」、「目袋」、「肝斑」、「シミ」(色素沈着)、「薄毛」、「脱毛症」など様々あります。

「生活」とは、生きるだけでなく楽しみのある生き方が必要であり、「健やかに美しく」や「Forever young」(いつまでも若々しく)は、誰しもが望むところです。ですから、「健康」と「美」を離して考える事はできません。それが真の「QOLの向上」(生活の質の向上)なのです。

政府の目指す「QOL向上」、そして、「メタボ対策」&「ロコモ対策」は「健康」のみをターゲットとしています。我々が考える「真のQOL向上」と多少の違いがあるようです。健康寿命と平均寿命の差を短縮させると政府の目標に「健やかに美しく」も不可欠なターゲットなのです。

女性の職場と言えエステ分野は、この社会的問題に貢献できるのです。例えば、私どもが使用されている「インディバ®」の高周波温熱・非熱、その他エステの技術や手技を活かし、

近年、高周波温熱作用の重要性が、いろいろ分野で喧伝されています。まずは悪性腫瘍におけるQOLの向上から始まって、色々な疼痛緩和、血流改善、筋力強化、関節可動域ROMの拡大、スポーツ外傷の治療など、その適用範囲は広範囲に渡っています。

一方で超高齢化社会を迎えるに当たって、最近では国民病とも言えるロコモ対策にも今後、高周波温熱機器は大きな一翼を担っていくと思われ。ロコモは健康寿命を短縮し、メタボや認知症と並んで要介護の三大因子のひとつとされ、これは国民総医療費を大きく押し上げています。また要介護に陥ることによって、家族の経済的負担も大きくなり、高齢化が進めば進むほど私たちはこのロコモ対策に本腰を入れる必要があります。それには日々のトレーニングや栄養の摂取と相まって、高周波温熱機器を用いた深部加温によるエネルギー代謝の向上が必須となります。

健康寿命を延ばしQOLを向上させるには、「健康と美(健やかに、美しく)」がキーワードになります。それにはエステティック、メディカルエステ、整骨院などにおける「インディバ®」を用いた施術が、大きな貢献をもたらすと思います。

幅広い用途・応用によって幅広い相乗効果が期待できるのです。

温熱・非熱作用だけでも、「低体温の改善」、「正常な体温保持」、「正常な代謝促進」、「自律神経のバランス」等々、「ロコモ対策」に貢献可能な禁忌性の低いエステの技術・手技全てに期待できる相乗効果は多々あるのです。エステ分野が社会に貢献できる機会なのです。

日本の「健康寿命」と「平均寿命」の現状(2014年)

	平均寿命	健康寿命	差
男性	80.21	71.19	9.02
女性	86.61	74.21	12.4

平均寿命と健康寿命(日常生活に制限のない期間)の差は、平成26年で、上記のとおり、男性9.02年、女性12.4年となっており、この差は、日常生活に制限のある「不健康な期間」を意味します。

健康寿命の「短縮」を止め「延伸」させるのです。

長年、エステの基本理念は、「癒しと美」と言われてきましたが、ここ10年余りに、消費者の著しい知識レベルの向上により、「健やかに美しく」→「QOLの向上」と変化し、健康志向に変わってきました。考えてみれば、自然な発想であり、体内組織機能の低下のままで外面の「美の追求」などはあり得ないからです。特に、「低体温」で悩む人が一番感じるところでしょう。正常な体温保持は「生命の源」であり、関連機器の技術、手技・エッセンスやサプリメントの全ては、内面からの作用を目的としています。

従って病気でない「症候群」のレベルで、エステの技術・手技による相乗効果が期待できないという考え方を改めることです。

政府が打ち出している女性の活躍推進政策にも応え、「エステの手技、その他技術」+インディバとの併用で幅広い相乗効果により「美」・「健康」→「QOL向上」、そして、「健康寿命の延伸」を目指す同企画は、女性の活躍推進の機会であり、多大な社会貢献ができるものと確信します。最後に、「インディバの温熱作用・非熱作用」だから可能な提案なのです。

株式会社インディバ・ジャパン
代表取締役会長 山口 祐司



東海大学名誉教授
谷野隆三郎